

戦前戦後のふたつの青森市民歌（担当：鈴木）

先日、市民の方から新旧の青森市民歌に関するお問い合わせがあり、編さん室の蔵書などで調べてお答えしました。今回はそのことをお話ししたいと思います。

現在の市民歌は、旧浪岡町との合併後、平成 17 年（2005）12 月 26 日に制定された「大きな朝に」（作詞 ^{しのぎきじゅんのすけ} 篠崎 淳之介・作曲 ^{かわさきしょうえつ} 川崎 祥悦）ですが、その前には、戦前と戦後、ふたつの青森市民歌がありました。

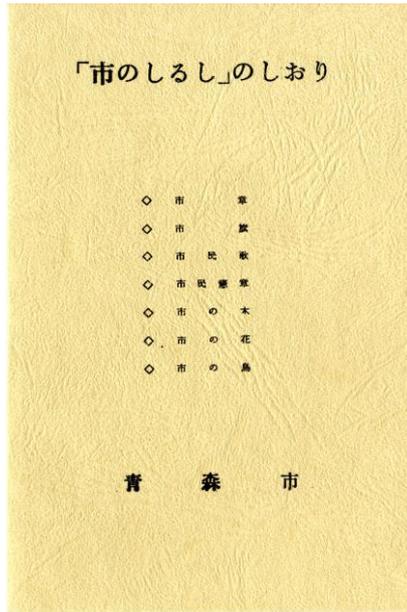
戦前のものは、「大空翔ける ^{そうりゅう} 蒼 竜 の 雄姿に似たる大日本 その ^{りゅうこう} 竜 口 の 陸奥の海 文化の潮寄る浜に 父祖の建てたるこの都 我が ^{ようらん} 揺 籃 の 青森市」（作詞 ^{いわむらよしまる} 岩村 芳麿・作曲 ^{こせき} 古関 裕而）という歌詞で、4 番まであります。ちなみに作曲者は高校野球でおなじみの「栄冠は君に輝く」や「六甲おろし」などを作曲した方です。この市民歌は、昭和 9 年（1934）7 月発行『東奥年鑑』の、昭和 8 年 5 月～9 年 4 月にレコード化した本県の唄という欄に「青森市懸賞当選歌」として掲載されています。また、尋常科五・六年以上の生徒の副読本として販売された『青森市民読本 全』（1934 年 4 月 25 日 青森市役所発行、市史編さん室所蔵）の巻頭にも掲載されています。当時、日本は国際連盟を脱退し、「非常時」という言葉が流行した世相を反映してか、勇壮な歌詞が続きます。



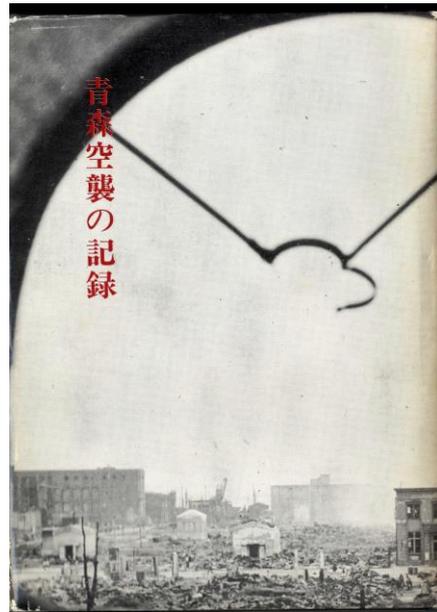
『青森市民読本 全』（青森市役所発行、市史編さん室蔵）

戦後は、市教育委員会が昭和 32 年に制定していた「市民歌」（作詞 ^{よこやまたけお} 横山 武夫・作曲 ^{きむらしげし} 木村 繁）が、昭和 47 年 7 月 26 日に「青森市民歌」として採用制定され、これが耳に馴染んでいる方が一番多いかもしれません。「^{せんこみず} 千古水すむ ^{そび} 十和田湖いだき 聳えて高し 八甲田山 空は北国紺碧 ^{こんぺき} ふかく 日輪あまねく 輝くところ おゝ栄えゆく わが市 ^{まち} かぐわしその名 青森市」と豊かな自然を、また「焦土のなかにも滅びぬ息吹よ…いま新しき大都市なりて…」と戦災からの復興も歌詞に盛り込まれています。翌 48 年には、この市民歌のレコード（B 面 青森市民行進曲）を先着 700 名に無料配布しましたが、まだお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

この昭和47年には、市民歌を含め、市章、市旗、市民憲章、市の木・花・鳥(アオモリトドマツ・ハマナス・ウトウ)と七つの市のしるしが制定され、また8月には『青森空襲の記録』(青森市)が刊行されました。

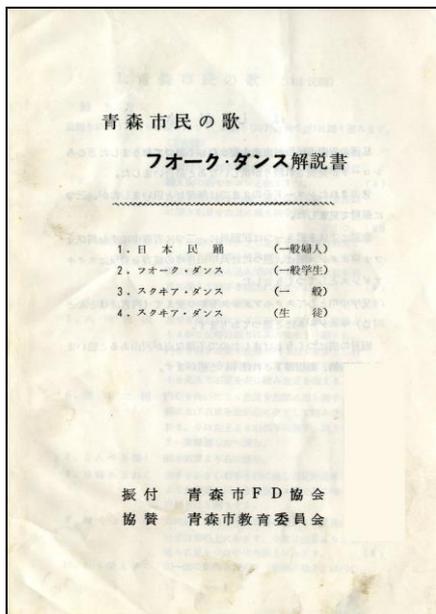


『「市のしるし」のしおり』
(市史編さん室蔵)



『青森空襲の記録』
(青森市)

市史編さん室では市民の方から寄贈を受けた『青森市民の歌 フォーク・ダンス解説書』(振付 青森市FD協会、協賛 青森市教育委員会 発行年不明)を保管しており、これには、「日本民踊(一般婦人)・フォークダンス(一般学生)・スクエアダンス(一般)・スクエアダンス(生徒)」と4パターンの踊り方が紹介されています。かつては学校教育・社会教育の場で踊られたのでしょうか。



『青森市民の歌 フォーク・ダンス解説書』(市史編さん室蔵)

なお、現在の青森市民歌「大きな朝に」は、青森市のホームページで聞くことができます。入り方は《トップページ→市政情報→青森市はこんなまちです→市のシンボル》です。